

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和8年7月末現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士・指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催

7月24日、指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催した。

今回は、飛騨市の指導農業士2名のほ場を視察し、お互いの経営を知ること新たな経営の視点や手法について学んだ。また、飛騨市の産直市「そやな」では、地元農産物の販売状況を見学するとともに、直売所の運営について店長から説明を受けた。ほ場視察後には、岐阜県農政部、JAひだ、高山市、飛騨市など関係機関を招き、今後の岐阜県農業に関することや飛騨地域の農業振興について意見交換を行った。

農業普及課では、12月に計画されている新規就農者激励会の開催に向け支援を行うとともに、今後も飛騨地域農業の発展に取り組んでいく。



【ほ場視察の様子】

■担い手・就農フェアにて、新規就農者を募集

7月4日に東京都、7月25日に大阪府で開催された就農フェアにおいて、飛騨市と連携し、飛騨地域への新規就農者確保に向けたPR活動を実施した。

当日は飛騨市ブースにおいて、就農を希望する来場者に対し、飛騨地域の農業の特徴や栽培品目、就農支援制度等について説明した。また、農業経営や研修制度に関する相談に対応し、就農希望者が飛騨地域での就農を具体的に検討できるよう情報提供を行った。

今後、関係機関と連携しながら相談者へのフォローを継続し、飛騨地域への就農につながるよう支援を進めていく。



【飛騨市ブースの様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■パプリカ・環境に配慮した病虫害対策技術導入検討会を開催

飛騨パプリカ班では、令和5～7年度に取り組んだグリーンな栽培体系への転換サポート事業で得られたIPM技術のノウハウを積極的に活用して栽培を行っている。今年度は、7月中旬から順調に出荷が始まり、下旬には本格的な出荷を迎えている。

7月16日、飛騨パプリカ班の目揃え会と併せ、令和8年度第1回技術導入検討会を開催した。

今年度の各生産者の天敵利用状況及び害虫発生状況について、情報交換を行った。生産者は、自らのほ場における害虫の発生状況や傾向を把握し、有効な天敵を選択して害虫の発生を抑制していることが確認できた。

農業普及課からは、パプリカの主な病虫害の確認、天敵導入のポイント、消毒資材使用の注意点について説明した。

今後も関係機関と連携し、持続可能な農業の実現に向けた取り組みを支援していく。



【パプリカ目揃えサンプル】

■宿儺かぼちゃ・ほ場審査会を開催（飛騨全域）

7月15日、第13回宿儺かぼちゃ研究会ほ場審査会が実施され‘宿儺かぼちゃ’の予備審査と‘宿儺のめぐみ’の本審査が行われた。

‘宿儺のめぐみ’は‘栗のめぐみ1号’のブランド名で、‘宿儺かぼちゃ’より早生で収穫期が分散でき、高値の7月～8月に出荷しやすいことから、混植用品種として3年前より試作し、今年は去年の2.5倍の出荷量を見込んでいる。

当日農業普及課は、審査員長として役員と共に審査を行い、‘宿儺のめぐみ’のほ場の管理、着果状況、病害虫の発生状況について評価し、高山市、飛騨市、下呂市の8か所のほ場を審査した。

今年は梅雨時期に雨が少なく日焼けが懸念されるが、十分な日照時間が得られているため、良質なかぼちゃの出荷が期待される。

7月22日に‘宿儺かぼちゃ’の本審査を、9月2日に品評会を開催し、3月に表彰式が予定されている。

農業普及課では‘宿儺のめぐみ’の基本的な栽培体系の確立を目指すとともに、‘宿儺かぼちゃ’の栽培管理や防除指導を行っていく。



【ほ場審査（上段）と‘宿儺のめぐみ’着果状況（下段）】